

令和6年10月6日

全体会(役員会を含む)レジュメ

日時 令和6年10月6日 午後2時

場所 函館市町づくり交流センター

- 1 支部長挨拶
- 2 参加者自己紹介
- 3 支部大会に関する反省
- 4 今後の支部行事の運営について
- 5 その他

資料の内容

このレジュメ P1

支部長挨拶 P2

支部大会アンケート結果 P3

アンケートの結果と今後の方向性 P6

支部役員に事故を伝えるメール(パネルディスカッション) P8

パネルディスカッションに関わる酒井様のご退席の説明とお詫びについて P12

全体会に係るご意見 P12

全体会に対する思い P21

支部発足50周年記念事業プロジェクトへのお誘いについて P25

JARL 渡島檜山支部結成 50 周年記念行事の開催について P27

支部長挨拶

みなさん、こんにちは。本日は、午前中の非常通信ボランティア研修に続いて、参加して下さった方もおり、お疲れのところはと思いますが、ご参加に心より感謝申し上げます。

また、過日の支部大会においては、57名の私の予想をはるかに上回る参加者を迎えて、開催できましたことに心より感謝申し上げます。この大会の運営に際しまして、事前に、また、当日、そして、事後にと、協力員をはじめたくさんの方のお世話になりました。パネリスト及び司会者、また、あげますくださいの多数の出展に関しまして、心よりお礼申し上げます。

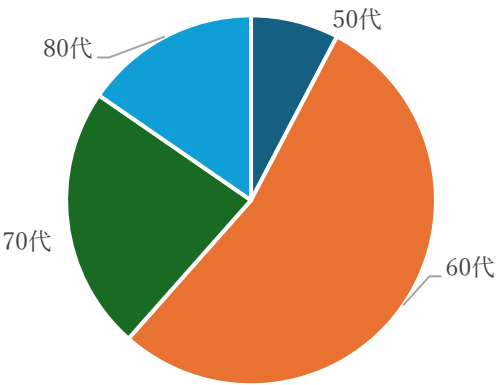
一方、パネルディスカッション・グループ討議、抽選会で、皆様に不快な思いをさせてしまう場面もあり、本会議で状況を説明させていただくと共に、顛末についてご理解いただき、この失敗を今後の事業展開に生かして参る所存でございます。

支部長の進退についても、考え、関係組織へ相談して参りました。また、支部の皆様からの貴重な励ましをいただき、今後も支部の責任者として、活動を進めていきたいと存じます。皆様からいただいた民意を大切に、今後も支部運営の舵とりをして参りたいと思います。

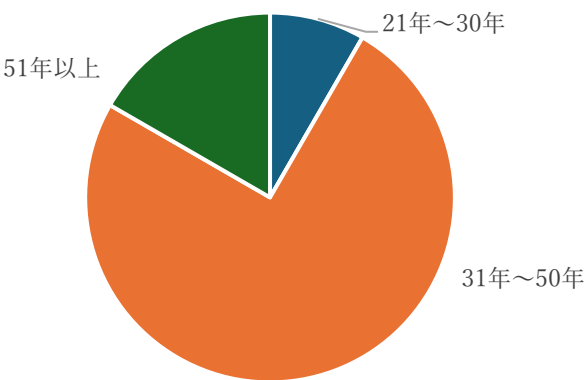
また、今後の周年行事などに向けて、皆様の率直なご意見をいただくと共に、支部運営へのご協力をお願いして参りたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

支部大会アンケート結果 回収 14 枚

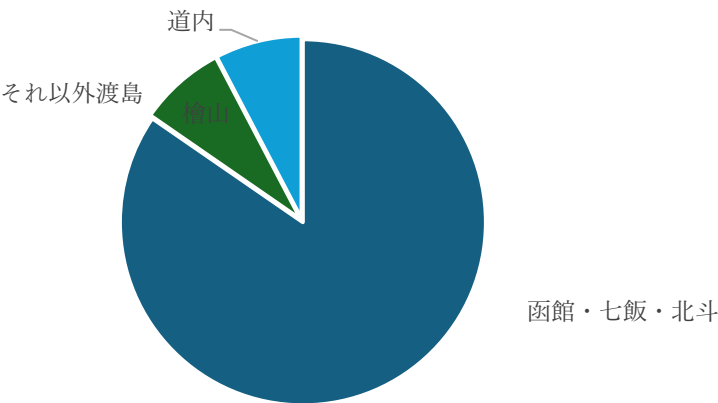
参加者年齢層



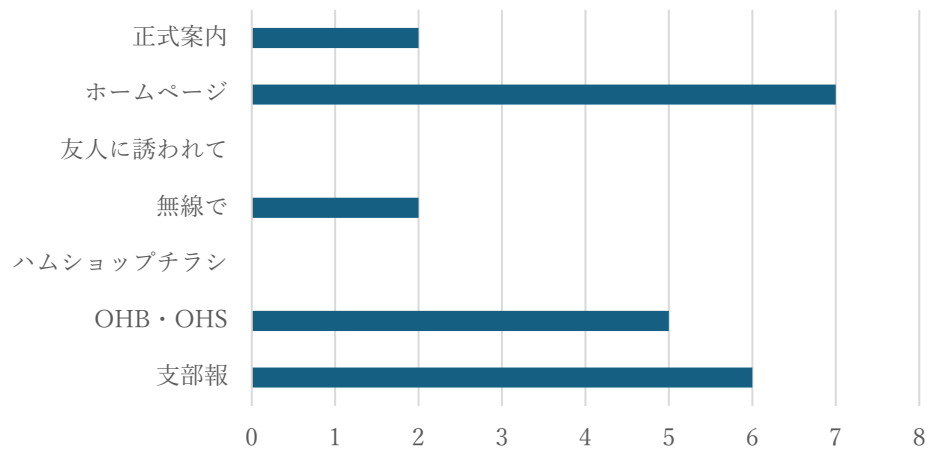
無線歴



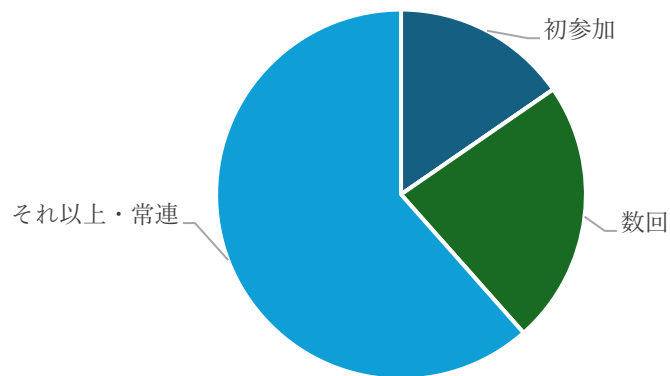
お住まい



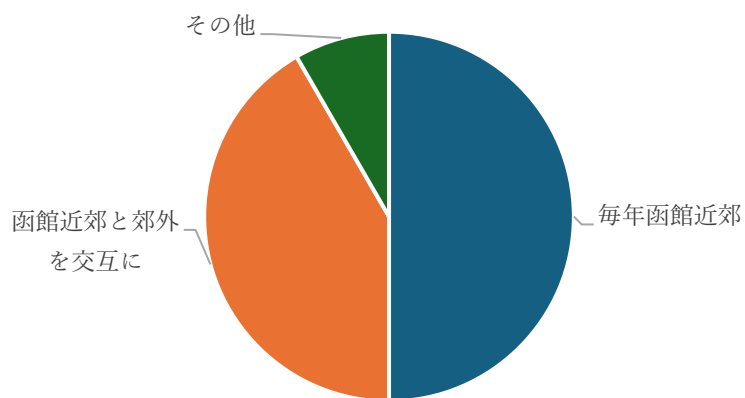
支部大会を知った情報

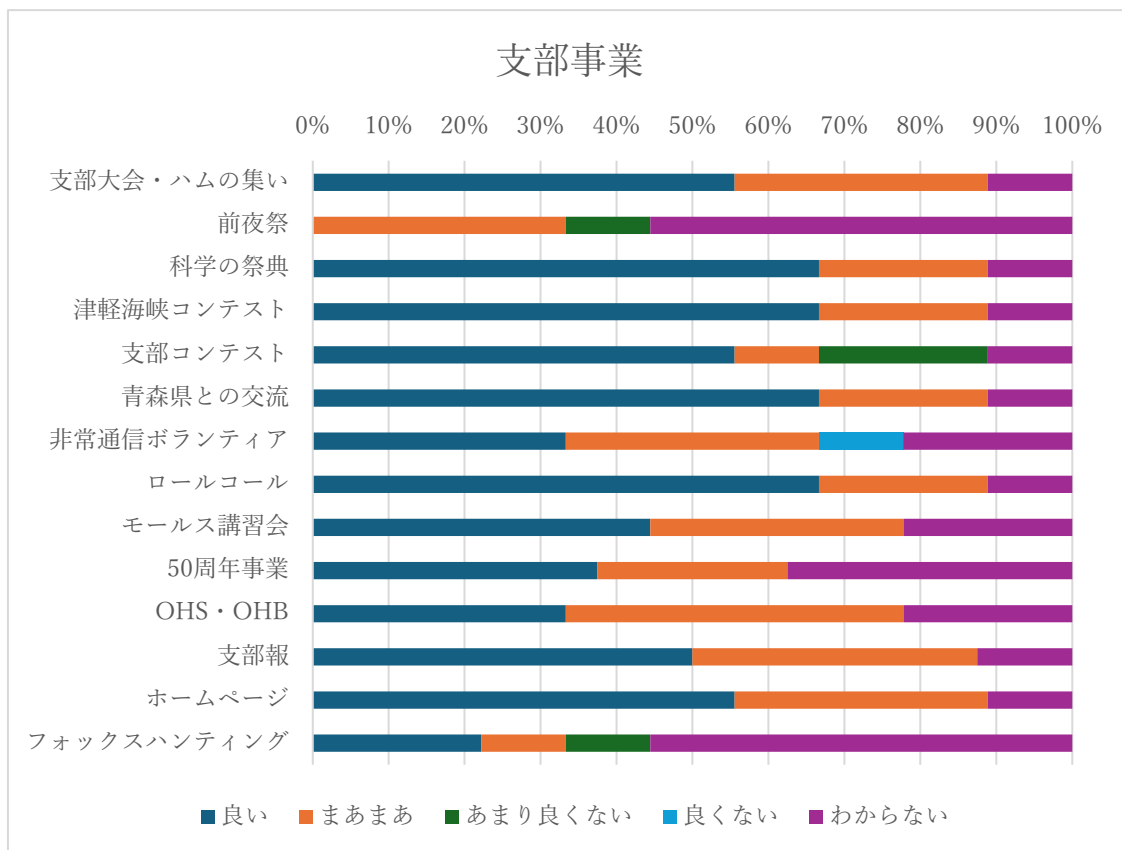
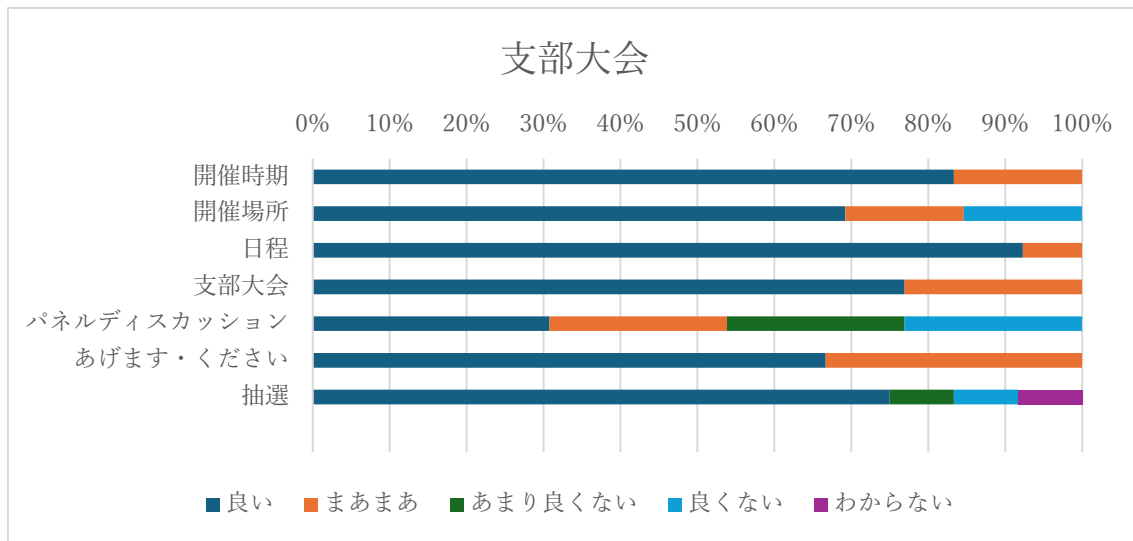


支部大会への参加



支部大会の開催場所





・パネルディスカッションではなく、講習会で良いと思う。「あげます・ください」は最後の方が良いのでは？ 帰ってしまう方がいるので、後の方がよいでしょう。パネラーの方が途中で帰られたのは残念。進行他に問題があったので、今後はやらないようが良いと思う。

- ・JARL 会員以外にトランシーバーが行くのはおかしい。
- ・ジャンク市よかったです。
- ・グループ協議？

アンケートの結果と今後の方向性

1 期日・日程について 概ねこの時期で良いと思われる。

場所については、おおむね良かったということなので、函館近郊で固定するのであれば、毎年、この会場でもいいのではないかな。

尚、場所については、函館近郊と地方、という声も結構あった。今回参加者のあった、森、木古内、江差、またクラブ局が会員である今金なども考えられる。いずれにしても、まず、受け入れ態勢があるかどうかのカギとなる。前回、厚沢部、その何年か前の乙部で開催した時は、私の勤め先であり、受け入れ態勢はできていたというのもある。

アンケート回答の数が少ないが、新しく開局した方については、ローカル同士積極的に誘うなどの働きかけが必要と思う。

支部事業では、前夜祭について、内容が伝わっていなかったようだ。写真や内容なども報告していくと参加率もあがるのではないかな。

2 内容 検討の余地がある

(1) 支部大会

内容については定番となるが、一年の様子をきちんと報告する場としては大切だと考える。

(2) ハムの集い

① パネルディスカッション

パネルディスカッションについては、司会者、パネラーも趣旨を理解していないとうまくいかない。温故知新をコンセプトに今へつなげ、それを今後に向けて考える方向性がうまく、グループ討議と結びつかなかった。計画そのものなのか、計画の理念のつがえ方なのか、課題を残すことになった。

話足りないことも多かったと思われるため、パネラーの了解を得た上で、内容に肉付けをし、50周年の記念誌にJA8時代のことを掲載していきたい。

② グループ討議

6つのグループで、討議ができた。昔を知つての上でのグループ討議を期待したが難しかったようだ。ローカル同士の交流になっていれば、いいのかとも思う。

③ あげます・ください

長万部の方の提供品が大きかったが、他にもたくさんの物品を持ってきていただき、数はうれしい誤算となった。後半の部ではさばききれないので、急遽、その場で役員の了解を得て、休み時間での開催とした。もらうものをもらって、帰った人がいるというが、そういうことは実際あるのだろうか。

④ 抽選

神様が微笑んだような運命の抽選だった。アンケートにJARL 会員以外に当たっ

たことへの疑問が書かれてあったらが、JARL に入るという条件もあるし、アマチュア人口も増えることになる。また、事前に役員会での了承も得ているので、問題ないを考える。

他支部事業について

- ・支部コンテストについては、課題を洗い出す必要がある。また、ログ提出が今月末なので、積極的なログの提出をお願いしたい。
- ・50周年については、プロジェクトへの参加が、手を上げてくれたのが私を含めて2名である。大変な事業ではあるが、渡島檜山支部全体の利益を考え、携わってくださる方とさらに増やしたい。
- ・フォックスハンティングについては、未実施なので評価が不定となっているが、来春行っていきたい。
- ・非常通信ボランティアについては、組織されているのは北海道は、ここの支部のみである。松平さんを中心に研修を進め、渡島檜山から情報発信ができる体制を作っていきたい。

支部役員について

それぞれ得意分野があり、その方面で活躍していただいている。一般事務にかかわる業務について、もう少し支部長の分担を分けあえることができればと考える。もう少し役員を増やしていくということも急務と考える。

その他

- ・支部の活動のためにということで、1万円の寄付を受けた。
- ・写真撮影で、池内さんに多大なるご尽力をいただいたので、支部からお礼をしたい。
- ・以前に出した手紙の返信用切手を返却して下さった方が何名書いた。
- ・午前中の観光案内をして下さった村田さんが必要経費について、支部に還元した言う申し出をいただいた。
- ・写真の申し込みは14枚となっている。
- ・コンテストログ受付1通
- ・JARL へのカード2局→発送済

令和6年10月3日
＜佐々木 朗 JH8CBH＞

全体会に対する思い

- 1 支部大会に対する顛末について
- 2 今後の支部活動への思い
- 3 お願い

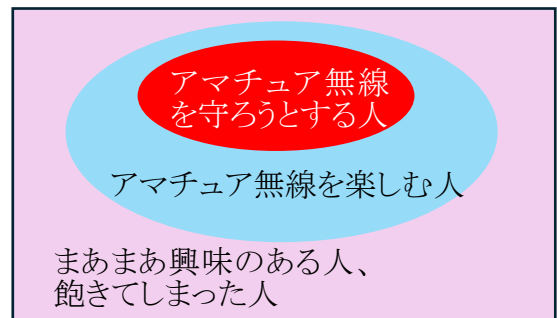
1 支部大会に対する顛末について(略)

2 今後の支部活動への思い

(1) アマチュア無線に対する温度

アマチュア無線に対する思いは、人によって異なります。私のように根っからの無線バカもいれば、数ある趣味の一つという方もいるでしょう。そして、一日に一回もアマチュア無線のことが頭に思い浮かばないという方もいることでしょう。

私は、右図のように整理してみました。良く私はよく、四級、三級は、アマチュア無線を楽しむ段階。そして、上級試験をクリアすることによって、単にアマチュア無線を楽しむということから、アマチュア無線をもっと発展させていこう、後輩を育てていこうという意識が育つなんていうことを話します



もちろん、ライセンスだけが意識を変えろということはないと思います。それぞれの楽しみ方や、人とのつながりなりなどでも、気持ちが変わると思います。みなさんの立ち位置は、どのへんでしょう。

私の予想ですが、お読みになっている方の多くは、赤、もしくは、赤と水色の境界線上がりにいらっしゃるのではないのでしょうか。

この支部大会を企画するに当たって、いろんな方から、アドバイスをいただきました。「多くの方が抽選を楽しみにしている。抽選がないと支部大会には来ない。」「抽選を最後にしないと帰ってしまう。」「話し合いなんて乗ってくる人はあまりいない。」「もらうものをもらったら帰ってしまう。」数ある中ですから、このようなお考えの方もいるのかもしれませんが、しかし、他の地域の支部大会などの記念写真を見ても、多くの方が集ってきているのが渡島檜山支部大会であり、皆様のアマチュア無線愛であふれた支部大会であったとも思えます。失敗もありましたが、盛り上がりもあったのではないかと思います。上図でいえば、赤に加えて、青の方、そしてピンクの方も顔を出してくださったの

ではないかと感謝しております。

また、たくさんの「あげます・ください」への出品は、うれしかったです。さばくのは大変でしたが、最後はテーブルの上が全てきれいになくなっており、有効な交換の場であったと思います。かなり高価なものもありました。会員の皆さんには、心より感謝申し上げます。

また、小さなことですが、皆さんに就任当初お出した返信切手をお返しいただいた方もいました。とても温かい気持ちになりました。

支部大会終了後、何通かのお礼のメールもいただきました。心の支えになりました。

(2) 不安

その一方、不安もたくさんあります。就任当時、メーリングリストの配信、非常通信ボランティア、協力員などのご意向を何うお知らせをメール、封書などで、お出ししましたが、返答率は、低かったです。支部報送付時も、再度お願いしましたが、お返事がない方もたくさんいました。

過日の支部コンテストは、管内の参加局が8名でした。提出ログから参加が判明した方の何名かは追加でログを提出していただきました。PR が悪かったのか、時期なのか、それとも何をしても参加がむずかしかったのか、今、集計をしながら、悩んでおります。

八戸の訪問も、今回は私一人でした。それでも今後も交流を続けていくことは約束してきました。

当初から2名の役員がお辞めになった事実です。支部運営に無理があったこととは反省しますが、今、どんどん、行動を起こし、盛り立てていかないと、アマチュア無線は衰退の一途をたどってしまいます。せめて私が責任をもつこの支部については、アマチュア無線から遠ざからないよう、そして、新たな楽しさを発見し、再開局、新規開局などで、盛り立てていくことが、自分に課せられた使命と思っておりますが、それが、受け入れられているのか、「そんなこと無理じゃない？」と思っている方が多いのか、不安であります。

でも、選挙でいただいた多くのご支持は、「支部を盛り立ててほしい。アマチュア無線のために、がんばってほしい。」という民意であると思っており、険しい道ではありますが、一つ一つ事業を進めて、アマチュア無線を活性化していくのが私の使命であると思っております。

(3) 50周年、他行事無向けて

今、私の頭の多くを占めるのは、支部結成50周年の事業です。支部報で全ての方にアナウンスいたしましたが、協力いただける旨、連絡をいただけたのは1名でした。少ない人数でも、記念誌を作り、祝賀会の段取りを進めていくことはできると思います。しかしながら、多くの方が「お客様」であったり、「自分とは関係のないこと」、ととらえて

しまったりしては、行事を消化したということで、終わってしまいます。

周年行事は、アマチュア無線に限らず、職場でも節目節目に、実施しているものと思います。これまでも振り返ると共に、次の10年を見据えて、未来につなげていく大切な行事です。

私は、2000年の全国大会、そして、支部結成30周年、40周年と、小さな力ではあましたが、JARL 渡島檜山支部の活動に携わって参りました。だからこそ、今があるのだと、諸先輩には感謝しております。

今回のプロジェクトについても、私と同年代、そして、若い方には、ぜひ参加し、支部の伝統を守り、未来永劫に渡って、支部の発展を願う一つの機会していただきたいと思っております。ごく少数で、全てを担っていったら、70周年時、80周年時に、「記念誌作ろうか。」という話題さえのぼらないことになるのが、目に見えます。現に昨年、50周年行事を行った支部は道内にはありませんでした。一年遅れの渡島檜山支部のみです。

(4) アマチュア無線を守っていく人を増やしていきたい

役員会でも、「もう少し、人を増やしたい。」という意見が毎回です。現役員である松平さんは、非常通信を通信に積極的に動いていただいております。中澤さんは、いつも電話連絡ですが、支部報の袋詰め、私が体があまり利かないのをカバーして、支部大会の後始末をたくさんしていただきました。村田さんには、支部大会で青森の皆さんの函館案内をしていただきました。そして、支部運営で感じたことを率直に私に教えてください。船橋さんは、会議には極力都合をつけてくださいます。また、支部大会の最後の締め言葉は、自分で下書きを用意し、何度も練習して臨んでくれました。私にとっては貴重な仲間であります。お辞めになりましたが田中さんは、適切にアドバイスを下さり、会計もプロの仕事をしていただきました。

渡島檜山支部には、まだまだ、経験年数やライセンスに関らず「アマチュア無線を守っていく」という思いのある方、そして、この世界に長く身を置いている方においては、「そういう立場かもしれないなあ。」と思う方も多くいらっしゃるのではないのでしょうか。

私は、時間を見つけては、全国の支部のホームページを見て、どのような活動をしているか勉強しています。その中で「渡島檜山支部は活動している支部」だなあと感じます。きっと皆さんの中にも、「うちの支部は何もやっていない。」と思われる方は、あまりいないのではと思います。

3 協力へのお願い

以前の職場でもよく言われました。「自立とは、自分一人で全てをやっていくことではない。本当に困った時に、『助けて。』と声を上げることができることである。」今、まさにそんな心境です。もう少し皆さんの力にも頼りながら、支部のかじ取りをして参りたいと思います。どうぞ、助けてください。

6日の会議の後半は、皆さんに、50周年を中心に、お仕事の協力をお願いしたいと思います。アマチュア無線を守ることは、支部活動に参加することだけではないとは思いますが、JARLの一組織として大切な活動であることは間違いありません。

「仕事が当たるなら冗談じゃない。行くわけない。」という考えで人が来ないか、また、アマチュア無線への愛、支部活動への温かい気持ちがある方にたくさん集っていただけるか、不安ではありますが、渡島檜山支部は、愛のある支部であると思っております。参加者で、アマチュア無線の今を見つめ、未来の方向性を描く会になればいいなあと思っております。

役員とか、協力員とかの看板を外してもかまいません。支部活動へのご協力を心よりお願い申し上げます。

期日 令和6年10月6日(日) 午後2時

場所 函館市町づくり交流センター(元の丸井デパート) 2階研修室 A

令和6年8月吉日

JARL 渡島檜山支部会員の皆様

JARL 渡島檜山支部

支部長 佐々木 朗

支部発足50周年記念事業プロジェクトへのお誘いについて

少しずつ朝夕の涼しい風に夏の終わりをを感じる候となりましたが、会員の皆様におかれましては、ますます、ご清栄のこととお慶び申し上げます。また、日頃より支部活動に対しまして、ご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、令和5年は、北海道が8つの支部に編成され、渡島檜山支部が誕生して50年を迎えました。この大きな節目を支部会員の皆様と一緒に祝福して参りたいと思います。

渡島檜山支部は、全国的に見てもとても活発な活動をしている支部であります。私がよく「伝統の渡島檜山支部」という言葉を使わせていただきますが、まさに、このような支部活動も長い伝統の中で培われてきたものであることがわかります。今回、周年行事が行われるのも道内で当支部のみです。支部の代表として、これまで支部を築いてきた諸先輩に感謝し、また、これからの時代を歩む方にエールを送る大切な機会であるにとらえております。

そこで、会員の皆さん（特に現職の忙しい世代の方々）にお願いがあります。この記念行事のプロジェクトと一緒に進めていくメンバーになって事業を進めてみませんか。私も30周年、40周年とこの事業に関わり、この事業のスピリットのものを心に刻むことができました。プロジェクトの内容としては、記念誌の発行と、11月9日（土）18:00 湯の川畑野商店 での式典の運営が柱となります。

どんな組織においても、次の世代の育成をしないと、組織は先細りしてしまいます。特に、若い世代の方は、お仕事をお持ちでしょうが、どうか「忙しい」の一言で終わらせてしまわず、会議などの参加も、業務への参加も、ご自身ができることをできる範囲で、支部の10年に一度のお祝い事にエネルギーを使っただけであれば幸いです。経験者、未経験者が心を一つにし、記念誌の編集などの仕事から、記念誌の袋詰め、式典の受付など、ご自身のできる範囲で、企画をしたり、お手伝いいただいたりと考えております。9年後の60周年は、若い世代の経験者がいないと、行事は成り立っていかないと思います。どうぞ、渡島檜山支部の伝統を守るためにも、力を貸してくださいますようお願いいたします。

具体的には9月に入って一度、プロジェクト全体の会議を開き、内容を詰めていきたいと思います。照会や、プロジェクト参加などのお返事は、皆さんから、メール、電話などでいただければと思います。どうぞ、よろしくお願いします。

JH8CBH 佐々木 朗

042-0922 函館市銭亀町 210-13 090-8277-9744 asasaki@edu-hakodate.jp

令和6年7月28日
10月5日加筆
＜佐々木 朗 JH8CBH＞

JARL 渡島檜山支部結成 50 周年記念行事の開催について

0：経過

過日の役員会でもお話したが、自分が30周年、40周年と周年行事に関わってきた。昨年が50周年となる。他支部では、特に行事は持たなかったようであるが、一年遅れにはなりましたが、伝統の渡島檜山支部の代表としては、先人の苦勞を称えつつ、60周年に向けてのくさびを打ちたいとの思いで、一年遅れになるが、この計画を提案し、皆さんの了承を得た。

1 基本方針

支部を支える会員が激減（2012年度281局、2024年度185局）しており、会員の高齢化が進み、新しく開局する方も少ないという現状にあります。この10年間で意識しつつも、あまり高望みをせず、しかしながら、アマチュア無線のこれからの原動力となり得るようなことを考えていければ良いと思います。特に、このままでいくと、10年後の60周年は、先行きが怪しくなっていくと思います。伝統の渡島檜山支部を守り、育てるために、若い方の行事への意識化を強化していきたいと考えます。

2 目的

- (1)JARL 渡島檜山支部が50周年を迎えることができたことを、会員一同で喜び合い、今後も、支部の発展を願うとともにJARL、JARL 北海道地方本部の発展を願う。さらに、支部会員としての帰属意識を高める。
- (2)若手の会員（概ね60歳未満）の方には、個別に声をかけ、実行委員会に入ってもらい、仕事を覚え、10年後を見据える機会とする。
- (3)諸事情によって、第一線を退いてしまった会員、元会員に積極的に連絡を取り、祝賀行事に参加し、また、アマチュア無線の世界に触れ、無線の楽しさを再発見する機会とする。特に若い世代の発掘に力を入れてアマチュア無線の楽しさを再発見を促す機会とする。
- (4)支部会員の交流の場として、今後の渡島檜山支部の発展及びアマチュア無線の発展を目指し、アマチュア無線の楽しさ、技術の向上などを交流する場とする。

3 主催 JARL 渡島檜山支部

4 主管 JARL 渡島檜山支部結成 50 周年記念行事プロジェクト委員会

5 祝賀会の基本方針（案）

(1)セルフサービスを取り入れ、できるだけコストを抑える。

オードブル、茶菓、基本の飲み物で 3000 円会費とする。飲み物の追加はその場で受ける。（現金払い）

(2)会費 3000 円

6 式典の期日及び場所

11 月 9 日（土）18:00 JARL 渡島檜山支部発足 50 周年記念式典

函館市湯川町 畑野商店内 「ゆったり一な湯川」（仮の予約 ok）

7 これまでの経過

7/6 北海道地方本部会議で構想の概略を説明

7/14 支部役員会で、構想の基本の承諾を得る

8 記念式典に向けて支部大会に向けて

(1) 内容(例)

①開会の言葉

②支部長挨拶

③祝辞（協議） 函館市長、JARL 会長、JARL 北海道地方本部長祝辞、JARL 青森県支部長

④表彰（協議） 伊藤元支部長、船水前支部長

⑤祝杯

⑥スピーチ（協議）

⑦私とアマチュア無線 若い世代の方

⑧乾杯

⑨閉会の言葉

9 考えられる業務

(1)実行委員会の確立

最初に実行委員会（支部役員、協力員などを含めて若い世代を取り入れる）のメンバーを集める。実行委員会の構成は概ね 60 歳代以下とする。

現在の実行委員 支部役員＋JR8ARS 宮嶋さん

(2)式典関係と祝賀会関係でそれぞれ業務を行う。

10 祝賀会関係で考えられる業務

①渉外 会場確保、オードブル、飲み物、茶菓、そのほかの手配

- ②参加者・来賓への案内、集約、名札
- ③会計関係
- ④挨拶、スピーチのお願い
- ⑤感謝状作成
- ⑥当日のしおりの作成
- ⑦一文字、各種表示、国旗、支部旗
- ⑧記念写真
- ⑨二次会？の手配
- ⑩会計処理

11 記念誌で考えられる業務

- (1)基本方針 200 部程度 輪転機+プリンタ、製本はどうするか
- (2)推進日程 10 月中頃まで原稿を集め、編集し、印刷し、製本業者に出す？か
- (3)予算 いくらかかるか、広告収入はどうするか。
- (4)内容の検討
 - ①挨拶 支部長、会長、地方本部長、青森県支部長
 - ②特別寄稿 1 名（顕著な活動をしている方）
 - ②この 10 年を振り返る 支部大会の実施、特別局の実施、その他支部行事のダイジェスト、支部会員数の変化
 - ③私のハムライフ 3～5 名
 - ④各局短信